1 山あり、谷あり、平野あり

神奈川県の西には、丹沢の山々や、箱根の山々があります。
中央には相模川、西の方には酒匂川、東京都との境には多摩川が流れおり、そのままには広い平野ができています。

南東の地域は丘陵となり、三浦半島がつづき出して東京湾と相模湾を分けています。
2 あたたかな気候

神奈川県は、日本の中でも気候の良いところといわれています。それは、丹沢・箱根の山々が、大きい河川の役目をし、冷たい風をふせぎ、太平洋側からはあたたかい空気が流れこむからです。

気候や降水量は、地形と関係があります。西の方の山地では、気温は低く、降水量はほかの地域の約2倍です。中央や東の方は、山地にくらべて気温が高く、降水量は少ないです。

3 全国で２番目の人口

人口が多い順ランキング（2017年）

ふえ続ける神奈川県の人口（1900年～2017年）

2017年（平成29年）1月1日の神奈川県の人口は、約915万人（男：約457万人、女：約458万人）で、東京都について全国で2番目の多さです。

戦争のため1945年（昭和20年）ころに人口がへったときをのぞいては、神奈川県の人口はふえ続けています。
4 さかんに行き交う人や物

わたしたちは、学校に通ったり、買い物や旅行に出かけたり、毎日のように移動しています。また、くらしに欠かせない食料品や衣料品などは、わたしたちの手にとどくまでに、さまざまなところから運ばれていきます。一方で、県内で生産された農産物や工業製品などは、国内のいろいろな地域に運ばれていきます。

こうした人や物の移動には、車、電車、船、飛行機などが使われます。
5 便利な鉄道と道路

県内の鉄道は、JRが13路線と、その他私鉄が23路線のほか、
横浜市営地下鉄が3路線あります。（2015年（平成27年）3月31日現在）。鉄道は、利用する
時間や路線によってこみにくい方が多いです。1日の中では通勤や通学で
利用する朝や夕方がこまめにあります。

また、県内には、新横浜と小田原に
東海道新幹線の駅があるほか、羽田
空港や成田空港へつながっている路
線もあり、県外や海外など遠いところ
へも行きやすくなっています。

県内には国道や県道などたくさんの道路が通っています。す
べての道路を合わせると2万5,754km（2016年（平成28年）
4月）で、地球の半周よりも長いきりになります。東名高速道
路や中央自動車道などを通じて、全国のいろいろな地域とつな
がっています。

また、県内には約400万台の自動車（乗用車、トラックなど）
があり、県外からも多くの車が入ってくることから、交通量が
ふえ、道がこんがらが出ている場所があります。

そこで、こんがらをなくすために、県は国や高速道路会社と
協力して、新東名高速道路などの整備や周りの道路とのネット
ワークづくりを進めています。
県内で働いている人は、およそ415万人（2010年（平成22年））で、全国で2番目に働いている人が多くなっています。仕事の内容を分類すると、最も多くのが、おろし売・小売業、サービス業を中心にとする第3次産業で働いています。農業や漁業を中心とする第1次産業や、製造業を中心とする第2次産業で働く人が年々増えているのにくらべて、第3次産業で働く人の割合はふえています。
(2) 農業：神奈川県内でつくられる野菜やくだもの

神奈川県内でつくられた新せんで安全な農畜産物は、わたしたちの健康に役立っています。また、田や畑などの農地は、自然とのふれあいや、やすらぎの場となっています。

神奈川県の農地面積は、県全体の約8.2パーセント（2014年（平成26年））しかありませんが、かぎられた農地でいろいろな作物を工夫して育っています。

しかし、人口が多く、必要としている量には足りないので、他の県や外国から食料を買っています。

都市の中で家畜をかうことは大変ですが、県内の農家は牛肉、豚、鶏を工夫して育っています。

みんなが学校給食で飲んでいる牛乳は、そのほとんどが県内でつくられています。

県内の農家数のうち、兼業農家：農業のほかにも、ちがった仕事もしている農家
専業農家：農業を専門とする農家

県内ですでにトマトの収穫（横浜市）

キャベツの収穫（横浜市）

三浦半島は、あたり合い気候と広い台地を生かしてキャベツ・大いこん・すいかなどの大産地になっています。

県内ですでにトマトの収穫（横浜市）

キャベツの収穫（横浜市）

三浦半島は、あたり合い気候と広い台地を生かしてキャベツ・大いこん・すいかなどの大産地になっています。
(3) 林業：森の役割

神奈川県の森林の面積は、年々少なくなってきているが、年々は県全体の約39パーセント（2014年（平成26年））となっています。

森の役割は、木材を生産するほかにも、木を通じて、水を貯え、自然を守る大切な役割を果たしています。

一度人間の手が加わった森林は、間違った手入れをしないと、自然の美しさを失ってしまうので、県の森は自然を守ることをさまざまな方法で、林道をつくり、手入れをする手伝いをしています。森をあずかったり、県民のみなさんにボランティアとして参加してもらい森林の手入れを進めています。また、木を使うことで森林を守り育てようとしています。

(4) 水産業：ゆたかな海のめぐり

神奈川県の海岸には多くの漁港があります。三浦半島の三崎漁港は、まるで漁港を中心にした遠洋漁業の基地として有名です。

東京湾では、あなたご、いかがい、すずきなどがとれます。相模湾では、なじみ、さば、いわしがなどを定置網でとっています。その他の海岸では、あわびやささえなどがとれます。このように、地域ごとに特徴のある漁業を行っています。

「つくり・育てる漁業」にも力をそそいでいます。まだ、ひめ、あわびなどを卵から育てて相模湾や東京湾に放流しています。また、のりやわかめなどの養殖も行っています。

芦ノ湖では、わかさぎ、相模川などではあゆを放流しています。これにより、自然豊かな海や川が守られて、おいしい魚が育ちます。
（5）工業：全国第2位の出荷額

神奈川県は、工業がたいへん好きな県であり、出荷額（工場で生産された物のうち、送り出された物の金額）が、愛知県について全国第2位です（2014年（平成26年））。

どんなものが出荷されていいるかを調べてみると、トラック、自動車などの輸送機が多くなっています。

特に、川崎市や横浜市の海岸のうめ立て地を中心にとされた京浜工業地帯は、石油コンピュータ、鉄鋼、自動車などの大きな工場が多くなっており、日本でも最も工業のさかななところの一つです。

また、湘南地域や関東地域には、広いしっき地にいろいろな工場が集まる工業団地があり、コンピュータなどの電気製品や自動車などが生産されています。これらの工場では、大型の機械を使って、生産が行われています。

地元で作られているもの

主な工業地域

どの地域に工場が多くあるかな。
(6) 商業：さまざまな生活にあった商業

神奈川県の商業の数は、4万8,275店で、全国第4位ですが、商業売上額で見るとおよそ17兆円で、全国第5位となっています[2014年（平成26年）]。

最近は、さまざまな生活にあわせた店が多く見られることになりました。
通りにそって、たくさんのがいの店がならんでいる商店街では、お店の人と相談しながら、必要な量だけを買うことができます。
かつては、ちゃんこや、たばこ、たばこはいんというさまざまなサービスを取り入れています。
さまざまな種類の店が集まっているショッピングセンターには、買い物ができる場所のほかに、遊ぶ場所や、いろいろな飲食店が集まったフードコートなどもあります。
（7）貿易：原料を輸入して製品を輸出

日本の産業は、外国から原料などを買い、それを製品にして外国に売るという貿易のしかたによって発展してきました。

神奈川県には、横浜港、川崎港、横須賀港の3か所の貿易港があります。

特に、横浜港は、日本を代表する貿易港であり、約160年の歴史をもっています。毎年およそ1万せきの外国からの船が入港し、160以上の国や地域と貿易を行っています。横浜港の2015年（平成27年）の貿易額は、成田空港、東京港、名古屋港に次いで全国第4位です。

横浜港で取り扱う輸出品（外国へ送り出すもの）のほとんどは工業製品です。中でも、自動車やその部品、工場などで使う産業機械が多く輸出されています。

また、輸入品（外国から運ばれてくるもの）で多いのは、液化天然ガスや原油、食料品です。最近は日用品が多くなっています。

横浜港は、近くに京浜工業地帯があり、工場でできた製品を船で外国へ運ぶのにとても便利な場所にあります。

ふ頭には、近代的なコンテナターミナルがあり、機械によって多くの荷物が積みおろしされています。大きなコンテナ船には、およそ1万1千個のコンテナを乗せることができます。これとは、ジャンボジェット1,400機分の荷物と同じです。

また、石油などはタンカーという大きな船で運びます。

輸出量・輸入量ともに、最も多い貿易の相手の国は、中国です。

また、液化天然ガスが増えるマレーシアやオーストラリア、原油が増えるサウジアラビアからの輸入が多くなっています。
神奈川県には、変化の多い海岸や、箱根・丹沢の山々などの美しい自然、歴史的または団地、国際港や中華街のある横浜など、多くの観光地があり、国内ばかりでなく外国からもたくさんの観光客がおとずれています。